

JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y

2面

「山形花笠まつり」で職員が観客魅了!
(山形県本部)

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

6-7面

日本の岩手から世界の岩手へ
ドジャース本拠地で県産PR
(岩手県本部)



配送先変更(住所・宛名)、
配布部数変更はこちら



<https://forms.cloud.microsoft/r/uvWgU72VtZ>

山形県本部

「山形花笠まつり」で職員が観客魅了!

農畜産物の適正価格への理解も呼びかけ

JAグループ山形は、8月5〜7日に開催された第64回山形花笠まつりの初日パレードに参加、正調花笠踊りや笠回しを披露し、祭りに華を添えました。

当日は、JAグループ山形の若林英毅会長を筆頭に、JA山形中央会、農林中央金庫山形支店、JA共済連山形、山形県本部、JAやまがたなどから総勢130人が参加しました。

山形花笠まつりは、「ヤッショ、マカショ!」の掛け声とともに、紅花を飾った花笠を手に踊り手らが華やかに舞う、山形を代表する夏祭りです。

パレードでは、若林会長と「つや姫レディ」、山形県を拠点とするプロサッカークラブ「モンテディオ山形」の選手らがパレードカーに乗りながら先頭を彩り、女性職員が正調花笠踊り、男性職員が笠回しを披露し観客を魅了しました。

また、山形県本部の



若林会長（最前列左から7人目）とJAグループ山形の参加者

長谷川直秀県本部長らが「適正価格にご理解を。食べて笑顔! 作って笑顔!」のキャッチフレーズを記した横断幕を掲げ、沿道の観客に適正価格への理解を呼びかけました。

広島県本部
営業開発部

メーカーと連携、広島レモンを未来につなぐ

ニッポンエールプロジェクトで商品開発や植樹活動

ニッポンエールプロジェクト協議会は、「瀬戸内広島レモン」をテーマに商品開発やPRを展開。参画メーカー10社と連携し、消費拡大と産地振興、担い手支援に取り組んでいます。

広島県は国内レモン生産量の半分以上を占める一大産地です。全農が事務局を務めるニッポンエールプロジェクト協議会はメーカー10社と連携し、商品開発やPR活動を通じて、「瀬戸内広島レモン」の認知度向上と消費拡大を支援しています。

今年3月には広島県三原市佐木島の鷺浦農園で「第2回レモン植樹・産地交流会」を開催し、メーカーや地元関係者約60人がレモン苗木約240本を植樹しました。9月2日には、JA全農、JAひろしま、JA広島果実連が広島県庁を訪問し、横田美香知事に活動成果を報告



横田知事を訪問し活動成果を報告

しました。

商品開発から消費拡大、生産振興、担い手育成までを一体的に進める取り組みとして、今後も連携して「瀬戸内広島レモン」の発展を目指します。

岐阜県本部

美濃いび抹茶の魅力 スイーツで発信

県内パティシエ50人が初のコンテスト



美濃いび抹茶の魅力を表現した受賞作品



力作ぞろいの抹茶スイーツを審査

美濃いび抹茶は鮮やかな色と豊かな香り、旨味^{うまみ}が特徴です。コンテストは岐阜県本部が岐阜県洋菓子協会へ協力を呼びかけ実現しました。

審査は見た目や香り、食感、味などを総合的に評価しました。グランプリには、大垣市の洋菓子店「ロワ・エ・レーヌ」の平野真也さんが考案した「CACAOL（カカオール）美濃いび抹茶」が選ばれました。平野さんは「こだわりのチョコといび抹茶の味わいが引き立つよう工夫しました。地元の人に食べていただき、美濃いび抹茶の魅力をもっと知っていただきたい」と話しました。

岐阜県本部は9月1日、岐阜県洋菓子協会と連携し、「美濃いび抹茶スイーツコンテスト」の審査会を岐阜市で開催しました。揖斐川町産「美濃いび抹茶」の認知度向上と需要拡大を目的に初めて企画し、県内のパティシエ50人が参加しました。

西村寿文県本部長は「生産者は重労働に耐えて作っています。岐阜県のおいしいお茶をおいしいお菓子にして消費者へ届けていただけるのはとてもうれしい」と期待を寄せました。受賞作品は各店舗で販売される予定です。

岐阜県本部

JAにしみのと水稻の高温対策資材を開発

生産者の声を反映 軽量、省力化も実現



高温障害対策へ新肥料をPR



土壌診断結果を反映して開発した『地力チャージ』

近年の猛暑により、水稻では白未熟粒の発生など高温障害^{うまみ}が大きな課題となつていきます。「地力チャージ」は、JAにしみの管内約2500件の土壌診断結果と生産者の声を基に開発しました。

4月からは、岐阜県本部の担当者が同JAに常駐し、JAのTACと連携して生産者への提案活動を強化していきます。今後現場の声を生かしながら高温障害対策を推進していきます。

岐阜県本部は9月から、JAにしみのと共同開発した水稻向けに酸資材「地力チャージ」の販売を始めました。土壌診断結果や生産者の声を反映し、施肥効率の向上と軽量化を実現。高温障害対策を進め農業者の所得増大を目指します。

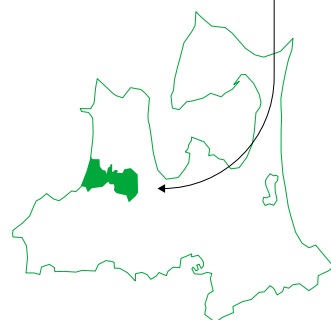
JA Zoom in

▲ズームイン 青森県 JAごしよつがる

米だけでなくスイカも
庭先集荷で農家を支援

青森県のJAごしよつがるは、生産者のもとへJAが出向く体制の強化を進めています。

その一環として、2025年度に米の庭先集荷を試験的に実施。今年は対象を小玉スイカに



も広げ、全農青森県本部、ヤマト運輸と連携して取り組みました。ヤマト運輸による農産物の庭先集荷は青森県内では初めての取り組みです。

ヤマト運輸から提案

スイカの庭先集荷導入は、すいか部会の役員会で集荷数量を増やす方法を話し合ったことがきっかけでした。手数料の引き下げなどの意見が出る中、庭先集荷の案が出ました。スイカの生産者はメロンも栽培する人が多く、収穫時期が重なるとスイカをJAまで運ぶことが負担となっていました。そうした中、ヤマト運輸から青森県本部に、輸送分野から農家を支援できないかという提案があり、庭先集荷を通じたJAとのマッチングが実現。スイカの収穫期を目前に、取り組みを開始しました。

運搬時間を別作業に

利用したのは、つがる市の木村淳さん。約2ヘクタールでスイカを栽培しています。これまで、朝収穫したスイカを選果・箱詰めし、トラックに積んでJAまで運んでいました。積み込みから運搬までには約1時間かかっていましたが、庭先集荷により、

概要	2026年6月30日 現在
正組合員数	3069人
准組合員数	2621人
職員数	148人
販売品取扱高	98億円
購買品取扱高	34億9千万円
貯金残高	367億8千万円
長期共済保有高	1018億3千万円
主な農産物	水稲、リンゴ、メロン、スイカ



専用ボックスごとトラックへ

その時間を別の農作業に充てられるようになりました。集荷にはキャスター付きの専用ボックスを使用。木村さんが階級ごとに専用ボックスへ積み込むと、ヤマト運輸のドライバーが専用ボックスごとトラックに載せてJAに運びます。木村さんは「運搬の時間を別の作業に使えるので助かる。午前中に集荷してもらえれば、さらにありがたい」と話しました。

JAは米、スイカでの実績を検証し、生産者の声を聞きながら、他品目への展開も含め、より利用しやすい庭先集荷の仕組みづくりを進めています。



専用ボックス導入で積み込み作業も効率化



出荷伝票を確認するヤマト運輸ドライバー（左）と木村さん

衛星データ × 可変施肥で

水稻生産を効率化

農機メーカーと連携し増収を実証

全農は、全農営農管理システム「Z-IGIS」で開発を進める可変施肥マップを活用し、水稻栽培の実証試験を行いました。井関農機(株)、ヤンマーアグリ(株)、ヤンマーアグリジャパン(株)と連携した試験では、均一施肥と比べて約5〜15%の増収を確認しました。

—— 耕種総合対策部

肥料価格の高騰や環境負荷の低減、担い手の経営規模拡大への対応が求められるなか、圃場の集約や合筆により、同じ圃場内でも生育にばらつきが生じる場合があります。こうした生育差を考慮せず一律に施肥すると、生育の劣る区画では収量低下を招く一方、生育の旺盛な区画では過剰施肥による倒伏などが懸念されます。全

農は、圃場内の生育状況に応じて施肥量を調整し、生育の均一化を図るため、「Z-IGIS」で可変施肥マップ作成機能の開発を進めています。

生育ムラを地図に

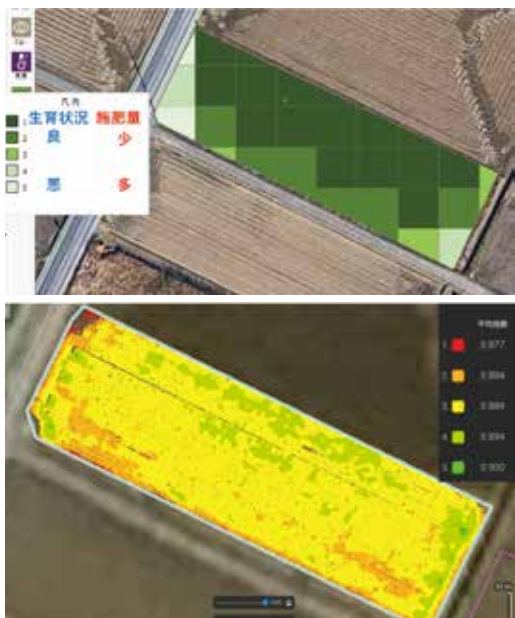
同機能は、人工衛星から取得した10メートルメッシュの画像データを活用し、NDVI（植生指数）の値に応じて圃場内の生育ムラを地図上

に表示するものです。生育差を可視化することで、場所ごとに必要な施肥量を検討できるようにし、きめ細かな施肥設計を支援します。

実証試験では、対象圃場の前作栽培期間に取得したNDVIデータをもとに生育状況を5段階に区分し、区分ごとに施肥量を設定したマップを「Z-IGIS」で作成しました。このマップを井関農機とヤンマーアグリ(株)の可変施肥仕様の田植機に取り込み、圃場内の生育状況に応じて施肥量を自動で変えながら、施肥・移植作業を行いました。

5〜15%の増収

その結果、可変施肥マップを活用した施肥区では均一施肥区に対して約5〜15%の増収が確認され、両社の田植機へのマップの適合性も確認できました。全農は、圃場内の生育差に応じた施肥管理やデータに基づく営農指導への活用を見据え、同機能の開発を進めています。これにより、生産資材コストの低減や収量・品質の安定化を図り、持続可能な農業経営への貢献を目指します。



Z-IGISによる可変施肥マップ(上図)、前年作期のNDVIマップ(下図)(ドローンセンシングにより作成)

井関農機田植機 (PRJ8D)



ヤンマーアグリ田植機 (YR8DA,VD)



日本の岩手から世界の岩手へ ドジャース本拠地で県産PR



大型ビジョン「DodgerVision」で放映されたPR動画

岩手県本部は米国・ロサンゼルス・ドジャーススタジアムで8月10～12日（現地時間）、県産農畜産物をPRしました。「いわて牛」の提供や映像の放映、PRブースでの交流を通じて、「純情産地いわて」の魅力を世界へ発信しました。

【岩手県本部】

世界が集う球場で 岩手の食を発信

岩手県本部は、ロサンゼルス・ドジャースとの2026シーズンパートナーシップ契約に基づき、岩手県産農畜産物のプロモーションを実施しました。世界中から多くの来場者が訪れる同スタジアムを舞台に、「いわて牛」を中心とした県産農畜産物の認知度向上と、「純情産地いわて」のブランド価値向上を目的に展開しました。

期間中、球場内でPRを展開しました。球場内の大型ビジョン「DodgerVision」や球場を囲むLED広告、球場内テレビネットワークなど



ダグアウトクラブ前のPRブースで来場者へ案内する様子

で「いわて牛」のPR動画や広告を放映したほか、ドジャースMCが進行する球場内企画にも協賛し、試合観戦の雰囲気の中で岩手県産農畜産物を印象づけました。来場者でにぎわうセンターフィールド・プラザと、VIPエリア「ダグアウトクラブ」前にもPRブースを設置しました。

「いわて牛」を食体験でPR

プロモーションの中心となったのは、岩手県が誇るブランド牛「いわて牛」。ダグアウトクラブでは、3日間で計450キロを来場者に提供しました。1日

ダグアウトクラブで「いわて牛」に並ぶ来場者



150^キのサーロインステーキを用意し、ビュッフェメニューとして提供することで、来場者に味わってもらおう食体験型のPRを行いました。約2500人が「いわて牛」を味わい、来場者からは「Great Flavor, so delicious! (風味が良く、とてもおいしい)」との声も聞かれるなど、好評を得ました。PRブースでは、「いわて牛」のロゴ入り法被を着用した岩手県本部の役員が、ノベルティやリーフレットを配布しながら、岩手県産農畜産物の魅力や、ロサンゼルス近郊で「いわて牛」を

取り扱う店舗情報を紹介しました。多くの来場者が立ち寄り、岩手の食に関心を寄せるなど、現地での対面PRを通じて、県産農畜産物の魅力を直接伝える機会となりました。

球団関係者とも交流

ドジャース球団関係者との交流の機会も設けました。岩手県本部の荻谷雅行運営委員会副会長らが、「いわて牛」をはじめとする岩手県産食材の特徴や魅力を紹介し、ドジャース球団関係者との関係を深めました。ドジャースの本拠地で県産農畜産物を紹介できたことは、現地の消費者に岩手の食を知ってもらうとともに、生産者にも日頃の取り組みの意義を再確認する



提供された「いわて牛」



センターフィールド・プラザのPRブースでノベルティを配布

機会となりました。

現地でプロモーションにあたった佐竹雅之副本部長は「海外での認知度向上や県産農畜産物のブランド価値向上につながる機会となった。今後もしわて牛をはじめとする県産農畜産物の魅力を世界に発信していきたい」と話しました。

国内外へ広がる発信効果

今回、ドジャースの本拠地で「いわて牛」が提供され好評を得たことは、海外でのPRにとどまらず、日本国内でもテレビや新聞ウェブ版などで約140件の情報発信につながるなど、県産農畜産物の価値を再認識してもらう機会になりました。

岩手県本部は今回得られた反響や知見を今後の販売促進活動に生かし、「いわて牛」をはじめとする県産農畜産

物の認知度向上とブランド価値向上に取り組めます。

特に、現地での食体験を通じて品質やおいしさを直接伝えられたことは、今後の海外向けPRや商談活動にもつながる成果となりました。ロサンゼルス近郊での取扱店や提供飲食店の拡大も視野に、関係機関と連携しながら、岩手県産農畜産物の魅力を国内外へ発信し、さらなる販路拡大につなげていきます。



ドジャース球団関係者との交流

ニッポンエールに
新たな仲間

リニューアルし10月から販売する
「ニッポンエール グミっちょmini」

小さくて食べやすい 「グミっちょ mini」

全農と全国農協食品(株)は「ニッポンエール グミっちょ mini」を共同開発し、全国農協食品(株)より全国の量販店で10月5日から発売しています。

【営業開発部】

「ニッポンエール グミっちょ mini」は、従来の「グミっちょ」よりも食べやすいミニサイズにリニューアルしました。さらに、新フレーバーとして福島県産あかつき桃を加え、福岡県産「あまおう苺」、北海道産「夕張メロン」、福島県産「あかつき桃」の3フレーバーを同時発売します。

全農は、国産農畜産物の消費拡大や生産振興に向け、今後も「ニッポンエール」の取り組みを全国の産地・品目に拡大していきます。



4,040円
(税込み)

JAみやざき
Tege Mahalo

きのこソース2種+5種のきのこ
炊き込みご飯の素セット

水稲の高温対策 土づくりが重要

大阪府内の水稲生産者の皆さまをはじめとした方々を対象に11月30日、「水稲土づくりシンポジウム」を開催します。ぜひご参加ください。

シンポジウムでは水稲の高温登熟障害対策における「土づくり」の重要性について、専門家が現場で生かせるポイント等を解説します。併せて高温対策に役立つ資材の紹介ブースも設置します。【大阪府本部】

日時	令和8年11月30日(月) 14:00~16:30
会場	グランキューブ大阪 10階会議室 1004~1007
テーマ	①高温障害に負けない水稲 生産のための「土づくり」 講師:(株)ファーム・フロンティア 取締役会長 藤井 弘志 氏 ②大阪府での水稲栽培に おける高温登熟障害と対策 について 講師:大阪府立環境農林水 産総合研究所 園芸・葡萄 グループ 岩本 百合香 氏
参加費	無料
申込方法	事前申込制
申込締切	令和8年11月20日(金)



開催案内チラシ

申込フォームは
こちらから



優秀公邸料理人の地井潤シェフが監修した「きのこソース」と「5種のきのこ炊き込みご飯の素」を詰め合わせた贅沢なセット。

ジオパークに認定された霧島エリアで名水100選に選ばれるなど、34万年の歴史がつくる大自然の恩恵を受け育てる「玉光園」のきのこです。

「5種のきのこ炊き込みご飯の素」は5種類のきのこを乾燥させ、食感・旨味・香りが深く、よきのこの風味を楽しめます。

「4種類のきのこたっぷりトマトソース」はパスタやリゾットに、「えのきたけと塩麴のディップソース」は自身魚などのソースとしてもおすすめです。

(JAタウンはこちら) <https://www.ja-town.com>
(お問い合わせは) shop@ja-town1.com

ご注文は
こちらから

